

■フランス：原子力発電所の多数が停止、電力供給への懸念

フランスの卸電力取引所 EPEX において 2009 年 11 月 6 日、一日前ピークロード価格が一時 100 ユーロ（約 13,300 円）／MWh 近くまで急騰した。平日の一日前ピークロード価格としては 2009 年 1 月 14 日に記録した 148.37 ユーロ（約 19,700 円）／MWh 以来の高値である。一方、ベースロード価格も、11 月 2 日の 34 ユーロ（約 4,500 円）／MWh から 11 月 6 日には 82 ユーロ（約 10,900 円）／MWh に急騰している。市場関係者は、気温の低下によって電力需要が増加したことが要因としており、系統運用者 RTE も 11 月 6 日の電力需要が 11 月 2 日に比べ約 550 万 kW 増加し、価格がそれに反応したものと説明している。しかし、フランス国内では、この 2～3 カ月、定期点検の遅れ等の要因から国内の原子力の稼働率が低下し、電力供給の不足が懸念されている。既に RTE は 10 月 30 日に、11 月中旬から 2 カ月間は 1 日あたり 400 万 kW の電力輸入が必要であり、厳冬になれば電力供給停止もあり得るとの警告を発している。地元通信社によると、2009 年 11 月 2 日時点で 58 基の発電所のうち 19 基が点検のため停止している。通常この時期に停止する発電所は 4～5 基程度であり、例年より大幅に多くの発電所が運転停止となっている。その原因としては、今年初めに実施されたストにより機器の点検や燃料交換作業が大幅に遅れたためであるが、その他にも発電所の老朽化に伴う補修個所の増大も影響していると見られる。なお、EDF のガドネックス会長は 11 月 6 日のラジオ番組の中で、EDF は電力供給の停止を回避すべく有効な措置を取っていると説明している。